

数字で見る土木学会



2020年11月1日現在

公益社団法人 土木学会 / Japan Society of Civil Engineers
 企画委員会 & 土木広報センター
 TEL: 03-3355-3448, cprcenter@jsce.or.jp
 〒160-0004 東京都新宿区四谷一丁目外濠公園内
<http://www.jsce.or.jp>



個人会員

3.8万人

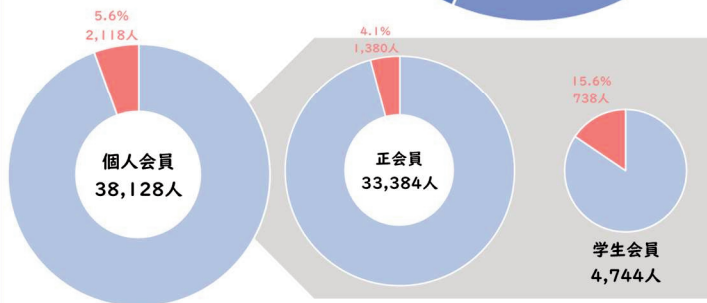
法人会員

628

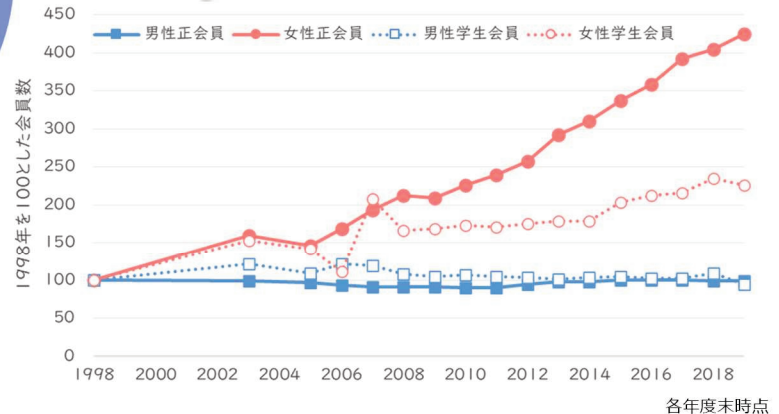
特別会員

477

2020年3月末現在



8支部



女性会員は 2,118人 **5.6%** 女性正会員は **4.2** 倍
 22年で

JSCE2020-2024

～地域・世代・価値をつなぎ、未来社会を創造する～



- 中期重点目標1（安全・安心）
安全で安心して豊かな生活ができる
持続性の高い国土再構成
- 中期重点目標2（国際）
我が国が有する質の高いインフラの海外展開と
国際的諸課題の解決への主体的貢献
- 中期重点目標3（コミュニケーション）
専門的知見に基づく公正な立場での対話の場と、
情報蓄積・公開を促すしくみの整備と利活用
- 中期重点目標4（人材）
次世代の土木技術者の育成と多様な人材が
活躍できる社会の実現

土木学会の5か年計画として、20～30年後に達成すべき「中期重点目標」を定め、達成に向けこの5年間（2020～2024年）に重点的に取り組む事項を、社会や会員に対して具体的に示したものです。

<https://committees.jsce.or.jp/JSCE20XX/jsce2020>

土木の2文字を分解すると「十一」と「十八」になること、土木学会の母体となった「工学会」の創立日が明治12年（1879年）11月18日であったことから、土木学会では11月18日を「土木の日」と定めています。



土木の日
DOBOKU DAY
NOVEMBER 18

11月18日は 土木の日

<http://www.jsce.or.jp/committee/day/>

448 選奨土木遺産

土木学会では推薦および一般公募により毎年、選奨土木遺産を選出・認定しています。土木遺産としての顕彰を通じ、歴史的土木建造物の保存に資することを目的として2000年度に始まり、全国各地に認定遺産があります。



2020年度選奨土木遺産 常盤橋（東京都中央区）

	北海道	東北	関東	中部	関西	中国	四国	西部	海外	計
河川・海岸	7	6	19	15	5	7	4	9		72
ダム・砂防堰堤	4	3	12	5	7	3	2	5	1	42
橋 梁	12	9	46	21	32	11	11	18		160
道 路	1	2	12	1	4	3	1	3		27
鉄 道	5	3	17	3	25	3	4	5		65
トンネル・隧道	2	2	12	5	12	1	2	5		41
港 湾	6	3	5			1	1	3		19
上下水道	4	4	15	4	5	1	1	5	1	40
発 電	6	1	7	4	3	1	1	1		24
灌漑施設		6	3	4	3	2		6		24
その他	4	5	10	2	6	9	3	4		43
計	51	44	158	64	102	42	30	64	2	557

支部、施設種別別土木遺産数 ※ 複数の施設で構成される遺産も存在

<http://www.jsce.or.jp/contents/isan/>

118 人/団体に 13 の土木学会賞

1914年に創立した土木学会は、1920年から、功績のある事業、人を表彰してきました。現在では13の賞があり、2019年度は118人/団体が受賞しました。

功績賞、技術賞、論文賞、吉田賞、吉田研究奨励賞、田中賞などは1960年代にはすでにあり、これまでに数多くの受賞者を生んできました。これらの賞を受賞することは、土木学会の会員にとっては大変に大きな名誉です。



<http://www.jsce.or.jp/prize/>

土木学会論文集

土木学会は、研究成果を学術論文集として発行しています。2020年現在、8分野・19分冊が刊行され、厳しい審査を通過した論文が掲載されています。2019年度には和文論文集に192編、英文論文集に20編が掲載されました。

8 19 分野 分冊 212 編

<https://www.jsce.or.jp/collection/>

調査研究部門行事

土木学会には、調査や研究を目的とした調査研究部門があり、29の委員会が設置されています。各委員会では、講習会や研究発表会などの行事を開催しています。2019年度は166件の行事が開催され、20,159名が参加しました。

166 回 20890 人

刊行書籍

土木学会では設計時の基準となる「示方書」といった技術書のほか、様々な書籍を発行しています。2019年度は10点の新刊を刊行しました。



10 点

2019年度の災害調査

土木学会では、国内外を問わず大災害が発生した際、発災後ただちに災害対策本部を設置、調査団を派遣し、専門的調査を行って学術的、技術的見地からメカニズムの解明と防災上の提案を行っています。2019年には6月の山形県沖地震、8月の佐賀豪雨、10月の台風19号に対して計5回、延べ161名の調査団を派遣しました。

2019年1月には、学会長を団長とした台風19号災害総合調査団が

「台風第19号災害を踏まえた今後の防災・減災に関する提言～河川、水防、地域・都市が一体となった流域治水への転換～」を公表し、政策の転換を訴えました。

また東南アジアを中心とする海外へは1999年から2019年の間に38回延べ396人の調査団を派遣しています。

5 回 161 人

<https://committees.jsce.or.jp/report/>

2020年度

5

つの重点ポイント

大災害への的確な対応と
社会への発信

東日本大震災復興10年の総括と
次なる大災害への備え

海外インフラ展開の戦略的推進

インフラメンテナンスへ
の戦略的取り組み

2020年の土木学会は、家田仁第108代会長のもと、この5つを重点ポイントとして取り組んでいる。

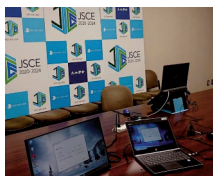
JSCEの新たなパートナー展開

行事・イベントのオンライン化

Covid-19の感染拡大の影響により、2020年3月以降に予定されていた土木学会の行事・講習会のほとんどが中止または延期となった。

3月以降、感染拡大防止の観点から事務局も在宅勤務による対応を余儀なくされる中、事務局を中心に、早期の活動再開に向け検討・準備を進め、6月8日の「インフラメンテナンス（鉄道）特別委員会」成果報告シンポジウムを皮切りに、行事・講習会のオンライン化が急速に普及した。6月から10月末までのオンライン行事は48件を数え、多いものでは2000名以上の参加するものもあった。

オンラインと会場とを併用するハイブリッド開催の数も増えつつあり、あらたな学会活動の姿が確立されつつある。



2020年6月～10月の
オンライン行事数

48

件

全国大会・年次学術講演会



2020年度の全国大会・年次学術講演会は、Covid-19の影響により、初のオンライン開催となりました。年次学術講演会では過去10年で2番目に多い3826件の講演があり、研究討論会やパネル展示等を含めた延べ参加者数は33458人でした。



3826

件

33458

人

国際交流

海外との交流も土木学会の仕事の一つです。2004～2019年度の間に、52回のジョイントセミナーを開催し、合計303名を派遣しました。



2018 International Workshop for Young Civil Engineers

52

のジョイントセミナーに

303

人を派遣
海外在住会員

159

名

技術者の資格付与と教育

「土木技術者資格制度」の認定技術者は2019年度時点で8058人が登録されています。一部は国土交通省の「公共工事に関する調査及び設計等の品質確保に資する技術者資格」に59の施設分野で登録されています。



認定技術者数（2019年度時点）

8058

人

特別上級：1001人／上級：2098人
1級：1670人／2級：3289人

<https://committees.jsce.or.jp/opcet/shikaku>



認定CPDプログラム（2019年度までの累計）

17362

件

継続学習

（CPD：Continuing Professional Development）は、技術者自身の能力資質、力量の維持向上を図るための継続的な研鑽です。土木学会ではその支援のため、審査のうえ一定の基準に適合しているプログラムを「土木学会認定CPDプログラム」として認定しています。

<https://committees.jsce.or.jp/opcet/cpd>

土木学会ではコロナ禍前よりオンライン学習の提供・拡充を図っています。2019年度は、「土木情報学入門」「比較自然災害学（水災害編）」のJMOOC講座を開講し、また舞鶴高専社会基盤メンテナンス教育センターとのコラボで「橋梁点検【基礎編】」を通年で提供しています。

土木学会提供
e-ラーニング講座

橋梁点検【基礎編】

2020年5月22日 開講
受講申し込み受付中

NetLearning

<https://committees.jsce.or.jp/opcet/01e-learning>

社会インフラ健康診断

土木学会は2014年から第三者機関として、日本の社会インフラの状態を評価する「インフラ健康診断」を行ってきました。診断結果を公表、解説することで、インフラの現状を広く国民のみなさんに認識いただき、インフラの維持管理・更新の重要性や課題に理解をいただくことを目的としています。

2019年度には、鉄道部門の健康診断を実施し、「鉄道インフラの健康診断と将来のメンテナンスに向けた提言」をとりまとめ、その成果の一つとして、「鉄道インフラメンテナンス図鑑」を発売しました。

2020年6月には、これまでの診断結果と健康状態を改善するための処方箋をあわせて、「インフラ健康診断書」として公表いたしました。



<http://committees.jsce.or.jp/reportcard/>



ドボクのラジオ（ドボラジ）は、土木関係者や土木好きの方をゲストにお迎えし、中央区を中心に東京のインフラに関する旬な話題や、土木の魅力をわかりやすく、そして熱く語っていただく番組です。

ドボクのラジオ

中央エフエム | 水曜20時(再放送:日曜12時)

<http://doboradi.jsce.or.jp/>

「ドボ博」とは、2016年度に土木図書館委員会が開館したオンライン博物館です。



2019年度は新たに「中部インフラ解剖」、「川展 日本河川風景二十区分」の展示をスタートしています。

<http://www.dobohaku.com>

Facebook フォロワー

43455人

HPや記者発表による発信のほか、SNSによる発信にも力を入れています。

YouTubeチャンネル登録者

626人

Twitterフォロワー

2356人

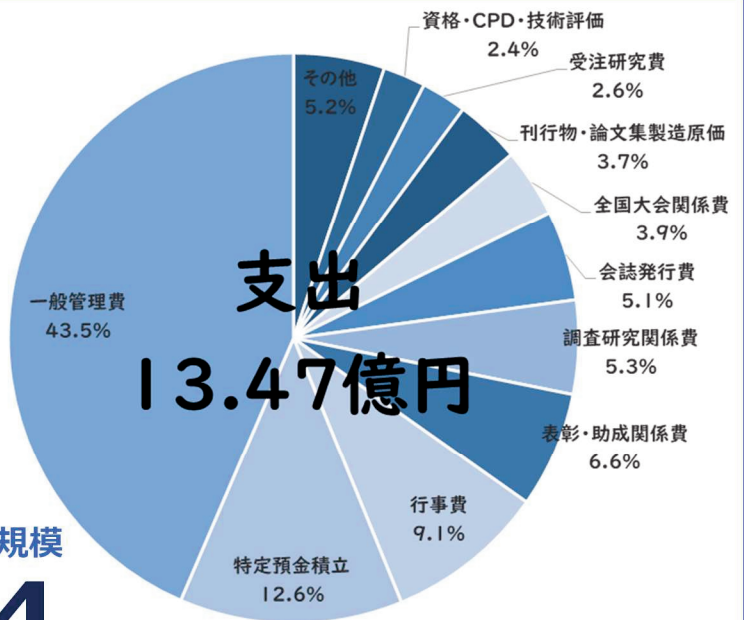
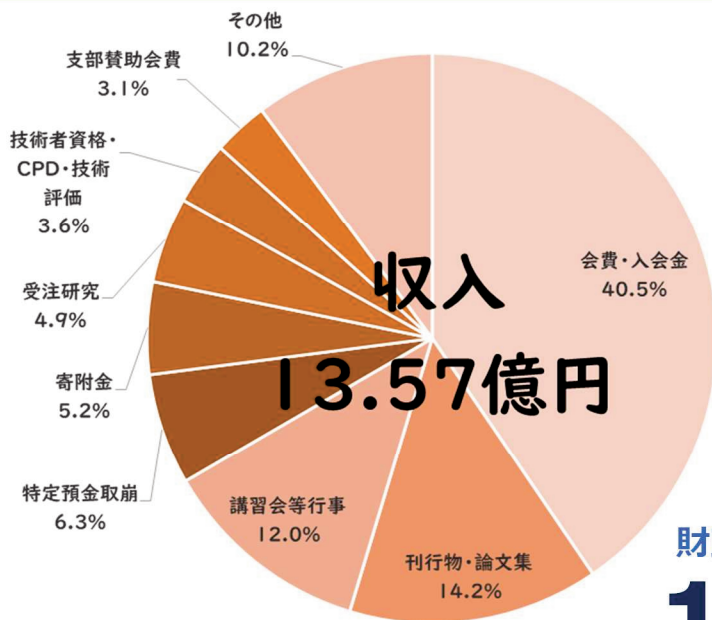
(それぞれ2020年10月時点)

土木コレクション2019来場者

3.5万人

土木コレクションは、土木界が保有する、普段目にすることができない貴重な映像や写真、図面、歴史資料の数々を毎年、展示・公開するイベントです。

<https://dobokore8.webnode.jp/>



財政規模
約 **14** 億円